

会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内 九一

1 日 に ち	令和 7 年 1 月 23 日 (木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	静岡県沼津市御幸町 16-1 沼津市役所
3 参 加 者	若尾敏之、吉田企貴、城處裕二、玉置真一、加藤智章
4 調査・研修の テーマ	『沼津市中心市街地まちづくり戦略について』
5 主な内容	1 中心市街地の活性化にあたって、目指すべき市民生活や経済活動の理想的な姿はどのようなか。 2 具体的な施策やその実施状況はどのようなか。 3 戦略の策定や実施にあたり、市民との連携や参加をどのように進めているか。 4 戦略の効果を測る指標として、どのようなデータを活用しているか。 5 持続可能なまちづくりのために、どのような財源確保や人材育成を行っているのか。

6 所感、提言事項、課題等

【若尾 敏之】

沼津市は富士山の南に位置し、伊豆半島の玄関口となっている。2本の高速道路が走り東京や名古屋からのアクセスは抜群である。人口は19万人弱であり、昼夜間比率が107.9%であり、昼の人口が多いことが特筆される。現在、第5次総合計画の4年目にあたり、人・まち・自然が調和し躍動するまち、誇り高い沼津を目指して、「ヒト中心で都市的魅力にあふれるまち」をまちづくりの柱として掲げている。

沼津市では、中心市街地でのまちづくりとして、沼津駅周辺総合整備事業と沼津市中心市街地まちづくり戦略を2本の柱として進めている。多治見市と同じように線路が市を分断し、いわゆる一等地に、機関区や車両基地・貨物駅といった大規模な鉄道施設が有り都市的土地利用が妨げられている。機関区は昭和61年に廃止、貨物駅と車両基地を別地区へ移転することなどにより、利便性の高い駅周辺に広大な鉄道跡地が誕生した。これにより、公共利用や民間投資による活用を図り、まちの活性化を促進し、高架下スペースとして使用できる場所を新たな街づくりに向けて有効利用していくことが出来る。

中心市街地まちづくり戦略として4つの戦略を位置付けている。①ヒト中心の公共空間の創出 ②拠点機能の立地促進 ③まちなか居住の促進と市街地環境の向上 ④周辺地域資源との連携。この戦略から中心市街地まちづくりの実現に向けて、交通影響検証・歩行者回遊行動実態調査（プローブパーソン調査）・空間特性分析（スペースシンタックス理論）などで調査・分析を実施し、まちづくりのシナリオを共有し、公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドラインへと進んでいく。まちづくりのシナリオに基づき設置された「パークレット」は、市民がゆっくりのんびり話し合える空間となっている。今後の検討項目として、維持管理の視点から「高校生との植栽管理トライアル」、利活用の視点から「歩道出展トライアル」、「パークレット周辺のゼブラゾーンの活用検討」などが挙げられている。

今回視察させて頂き、鉄道の高架化について、とても大切なそして時間の掛かる事業だと感じました。しかし、それが実現することにより生まれる空間などの利用を市民と考えることが、こんなにも人を豊かにすることがわかりました。多治見市でも鉄道を高架化出来たら南北の分断が無くなり駅周辺の整備も思うように出来、交通環境も大きく改善されます。長い年月が掛かりますが、必ず取り組みたい事業であると、つくづく感じさせられました。

【吉田 企貴】

沼津駅及び乗り入れ路線の高架事業に伴い、まちの枠組みが大きく変わろうとしている中での「中心市街地まちづくり戦略」について伺った。

東海道線の高架に伴い、まちが線路で二分されていた状況が改善され、中心市街地の持つ求心力が一層高まることが期待されていた。そうした中、特に注目に値したのが、駅周辺の基幹道路の幅員を敢えて狭くすることで歩行者空間の確保に努めようとしていた点である。

具体的には、車道部分の一部を据え置き、構築物でセパレートして、テラスの如く活用する（パークレットと言う）という社会実験を行っていた。こうした路肩の活用事例は国土交通省が近年進めているもので、国の政策の方向性と併せているものと思われる。

<国土交通省 HP「路肩等の柔軟な利活用事例」>

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/people-centered_road-space/pdf01/03.pdf

【城處 裕二】

沼津市の中心市街地まちづくり戦略について視察させていただきました。当市はＪＲの高架化を主軸に３０年スパンで計画を立て、短期、中期、長期と段階的に実現に向けて取り組んでおられます。長期ビジョンの建て方とその戦略について学びたいと思いました。当市の特徴は人口の昼夜間比率が１０７．９％と高く、中心市街地も多少の衰えは有るものの、その機能を失ってはいません。駅がまちの中心にある反面、鉄道が南北を分断しているのがまちの更なる発展を妨げる要因となっています。市全体の発展の為には、ＪＲの高架化が必要不可欠なのです。それだけ明確なビジョンが有っても、鉄道の高架化というのは時間の掛かる大変な事業であることを実感しました。本市と似た感じもしますが、背景にはかなり差があるようにも思えました。まちの構造、強み、弱みを押さえた上で将来像を描き戦略を練る重要性を感じました。

【玉置 真一】

多くの都市において、人口減少、少子高齢化の進展、環境問題への対応、ライフスタイルの多様化など、多治見市と同様の様々な社会的課題を背景として、新たなまちづくりが展開されています。

沼津市も、こうしたまちづくりの潮流を捉え、今後のまちづくりを進めておられました。

沼津市では、鉄道が市街地を南北に分断する形となっており、本来有する高いポテンシャルを市全体として発揮しにくい都市構造になっていました。

鉄道は市の発展に大きく寄与し、市民の重要な交通手段であり続けていますが、一方で、都市構造を分断し、慢性的な渋滞をもたらす要因ともなっているとの事、多治見市も同様の課題であります。

こうしたことから、現在、鉄道高架事業を中核とする沼津駅周辺総合整備事業を実施し、鉄道の連続立体交差化による南北交通の円滑化や市街地の分断解消を図っておられました。

これらの事業が今後本格的に展開することから、中心市街地のまちづくりにあたっては、これらの事業効果を中心市街地の魅力向上に具体的に繋げていく視点が重要と考え、市街地の構造や交通の環境、都市機能が集積し、公共交通網が集中する沼津駅の周辺を、ヒトが心地よく過ごし、安全で快適に回遊できる空間へと再生していく事業を進めておられました。

本戦略の策定にあたっては、中心市街地のまちづくりについて、様々な見地から意見を求め、関係者間での情報共有、調整及び連携を図るため、有識者、事業者、市民、関係行政機関等で構成される「沼津市中心市街地まちづくり戦略会議」を平成 30 年 9 月に設置するとともに、その下部組織として「公共空間再編ワーキンググループ」、「新たな都市機能導入ワーキンググループ」の 2 つのワーキンググループを設置し、具体的な検討を立ててこられました。

多治見市も、ヒト、モノの流れや市街地形成において様々な見地から意見を求め、関係者間での情報共有、調整及び連携を図り、駅周辺は勿論、ながせ商店街・土岐川・オリベストリートが持つポテンシャルを活かした施策を検討する必要があります。

【加藤 智章】

1 取り組みの内容

1) 基本方針

- ・ にぎわいの創出・歴史文化資源の活用・交流拠点の整備・公共交通の利便性向上

(2) 主な施策

- ・ 沼津リノベーションまちづくり事業
空き店舗・空き家のリノベーション支援
創業支援事業
- ・ 商業施設の誘致と地域ブランドの強化
- ・ 歴史文化資源を活用した観光プロモーション
- ・ 歩行者中心の街づくり（交通の円滑化と公共空間の整備）

2 取り組みの成果

- ・ 空き店舗の減少・若者の創業増加・観光客の増加
- ・ 市民のまちづくり参加意識の向上

3 多治見市への示唆

- ・ 空き店舗活用の促進・創業支援制度の拡充・地元資源を活用した観光施策の推進
- ・ 歩行者に優しい街づくりの検討・市民参加型のまちづくりプロジェクトの導入

4 所感

沼津市のまちづくりは、地域住民と行政が一体となって推進している点が印象的であり、多治見市においても市民協働によるまちづくりが重要であると感じた。特に、リノベーションまちづくりの取り組みは、中心市街地の魅力向上に大きく寄与しており、今後の施策の参考にしたい。



7 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。